



宮川本部長、中学生に仕事の幸せを語る



自衛隊静岡地方協力本部長・宮川知己一等空佐は2月6日(木)、静岡地本本部庁舎(静岡市)において、静岡大学教育学部附属中学校(同市)の1年生からインタビュアーを受けた。これは、同校のキャリア教育の一環として、生徒自身が実際に地域の人々に人生のこだわりや生活していく上で大切にしていることなどを聞き、将来の夢や理想と向き合う第一歩とするため取り組んでいるもの。

最初生徒は固い表情で本部長室に入室したものの、宮川本部長が満面の笑顔で挨拶すると緊張がほぐれたようで、「自衛隊の仕事の魅力を教えてください」と「仕事をしていますと感ぜた時はどんな時ですか」などと積極的に質問をしていた。

宮川本部長は、救難ヘリコプターのパイロットとして急患空輸や東日本大震災をはじめとする災害派遣活動において多くの被災者を救助した経験から、救助した本人や家族から感謝の手紙を受け取り、毎日厳しく苦しい訓練の中にも人の役に立てた充実感ややりがいを得ることができて、逆に自分が救われた気持ちになったことなどを伝え、「仕事は自分ひとりのためだけでなく、逆には他の人のためにやるもの。必ずたくさんの人々と関わりを持つことになるから、自ずと生きる幸せに結びついていく」と締めくくった。

後日、生徒から宮川本部長の元に「最後の言葉を深く考え、将来の仕事を考えるに当たって自分自身も幸せに生きられるようにこれからも勉強を頑張っていきたいと思います」と書かれた手紙が届いた。

静岡地本は今後も、各学校が計画するキャリア教育を積極的に支援し、生徒活動の一助となるよう取り組んでいく。

迫力あるLCAC訓練を間近で見学



自衛隊静岡地方協力本部(本部長・宮川知己一等空佐)は、2月19日(水)、沼津市今沢海岸で行われた海上自衛隊のエアクッション艇「LCAC(エルキャック)」の操縦訓練の見学と艇内見学に希望者4人を引率した。

LCACは、ホバークラフトにより洋上の艦艇から直接、海浜などへ上陸が可能で、艦艇が接岸困難な時に車両や人員、物資などを迅速かつ円滑に輸送できる。

はるか沖合に停泊している輸送艦「おおすみ」から発進したLCACは高速で浜辺に近づき、操縦するパイロットの技量維持向上のため、幾度となく水際での揚陸訓練を繰り返した。訓練の様子を見渡せる防波堤や砂浜には、その雄姿を一目見ようと多くの市民も集まっていた。

見学会の参加者は、エンジンの轟音を響かせ潮煙を巻き上げながら揚陸を繰り返すLCACの姿や、周囲で安全確保を図る誘導員の動きに興味深く見学し、その姿を写真に収めていた。

また、訓練の合間に砂浜に停止したLCACの操縦席や乗員室内を見学し、乗員の海上自衛官から同艇の性能や具体的な操縦方法について説明を受けたほか、乗員室には窓がないため乗り物酔いしやすいなど、普段知ることのできないエピソードなどに熱心に耳を傾けていた。

終了後、参加者からは「洋上から砂浜に上がる瞬間の迫力がすごかった」「大きな自然災害では港湾内に瓦礫が堆積したり、岸壁が破損したりして船舶が接岸できない恐れがある。砂浜やスロープのある場所なら容易に揚陸できるLCACの必要性が高まるかもしれない」といった声が聞かれた。

静岡地本は今後も、自衛隊の訓練を間近で見学できる機会を積極的に設け、平和を仕事にする自衛官の魅力を発信し、多くの若者に将来の目標としてみらえるよう努めていく。

オリンピック日本代表を目指す静岡出身隊員を激励



自衛隊静岡地方協力本部(本部長・宮川知己一等空佐)は、2月22日(土)、静岡県立静岡高等学校の自衛隊体育学校(東京都練馬区)訪問に同行した。

自衛隊体育学校は、陸・海・空自衛隊共同の機関で、オリンピック等の国際級選手の育成、自衛隊の体育指導者の育成、体育に関する調査研究を行っている。現在、体育学校には静岡東高等学校卒業生で、水泳種目200m自由形で東京オリンピック代表入りを目指している高橋航太郎3等海曹が在籍しており、今回は静岡東高等学校の笠井義明校長と生徒会長の和波志菜さんが高橋選手を激励した。

体育学校副校長の石津吉康1等陸佐から学校の概要説明を受けた後、実際にボクシングやレスリングなど4種目の練習風景を見学し、選手が生活する隊舎と各種練習場は隣接しており効率的に練習に打ち込むことができる環境であること、高橋選手以外にも静岡出身隊員がいることを紹介され、一人ひとりを激励した。

その後、いよいよ高橋選手が練習に励む屋内プールへ移動。国際競技が可能なプールには、水族館のように真横から水中を視できる小窓が四方に設置されており、そこから黙々と練習に取り組み高橋選手のひたむきな姿を間近で見ることができた。

高橋選手の練習後、笠井校長と和波生徒会長は直接高橋選手と懇談し、高橋選手の高校時代の思い出や自衛隊体育学校へ進んだきっかけなど、さまざまな話題に花が咲いた。最後に和波生徒会長から高橋選手へ、母校の後輩代表として記念品とエールが贈られ、受け取った高橋選手は「期待に応えられるように頑張りたい」と、代表獲得に向けた熱い思いを語った。

激励を終えた笠井校長と和波生徒会長からは「自衛隊の中にオリンピックなどを目指すアスリートの組織があることを初めて知った。今回の訪問は貴重な体験だった」「いろいろな種目や練習に励む隊員の姿を見て、日本代表になるすごさや難しさを改めて感じた」などの声を聞かれた。

静岡地本は今後も、自衛隊の組織や取り組み、隊員の活動などを積極的にPRしていく。